

熊本地本だより
11 月 号



自衛隊熊本地方協力本部

統一試験

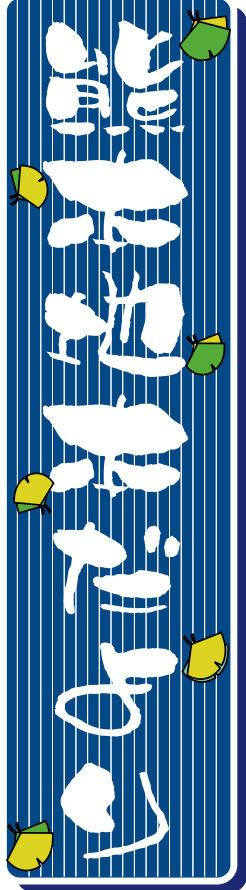


九月十九日（土）、熊本学園大学をはじめ県内六ヶ所において一般曹候補生一次試験及び自衛官候補生の筆記試験を実施しました。一般曹候補生及び自衛官候補生は最も多く入隊者を採用する種目であり、今回は一般曹候補生四九四名、自衛官候補生四九八名の志願があり、自衛官を目指す若い受験生達が試験に臨みました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で学校等説明会の実施回数減少や隊員自主募集数の低下もあり、十分な志願者が獲得できるか不透明でしたが、各所長・広報官の努力と各施策の成果もあり、各試験会場は、多くの受験者で独特の緊張感と情熱溢れる熱気に包まれました。

続いて二十日（日）から二十六日（土）にかけて自衛官候補生の口述試験及び身体検査を実施しました。口述試験においては、志望動機の質問に対し「国民を守り、家族を守っていきたい。」「災害派遣に従事し被災者を助けたい。」「など自分の考えをしっかりと述べ、純粹に自衛官を目指す気持ちと逞しさを肌で感じました。

今回各試験の実施にあたり、熊本地本は一丸となって、連日早朝から準備を行い、試験に集中できるよう受験者の立場に立った万全な受験態勢を整え、万全の新型コロナウイルス感染防止対策の下、厳正かつ適正な試験を行うことができました。引き続き各種採用試験においても整齊円滑な試験に努めて参ります。



発行所

自衛隊熊本地方協力本部
〒860-0047
熊本県熊本市西区春日2丁目10番1号
熊本地方合同庁舎B棟3階
TEL 096-297-2053

熊本地本 検索

<https://www.mod.go.jp/pco/kumamoto/>

 熊本地本 公式 HP

 熊本地本 公式 Twitter

公安系公務員説明会

8月15日（土）熊本地方合同庁舎において、公安系公務員志願者等に対し、熊本県警察と合同で公安系公務員説明会を実施しました。

本説明会は熊本県警察本部の協力を得て、自衛隊・警察の仕事が少しでも身近に感じてもらう、個々の不安を解消するとともに、参加者の受験意欲の向上を図れるよう企画しました。



当日は、県内の高校生、専門学校生及びその保護者を含め計29名が参加しました。

最初に自衛隊・警察それぞれの概要説明を実施し、その後参加者を2グループに分け、自衛隊・警察の各説明を行い、自衛隊では、陸・海・空自衛隊の役割と仕事の内容のほか、やりがいや魅力などについて分かりやすく説明を行いました。

参加者からは、「説明を聞いて自衛隊へのイメージが変わった。」「自衛隊の受験も考えてみます。」などの意見もあり、今後の自衛官募集につながる成果を収めることができました。



熊本地本は、各採用種目における自衛官の魅力を伝える募集活動に努め、募集目標の達成に尽力していきます。

募集（試験）案内		
種目	受付期間	試験日
一般曹候補生	11/2～11/24	12月5日(土)
自衛官候補生	10/27～11/30	12月6日(日)
陸上自衛隊 高等工学校学生 (推薦)	11/1～11/30	3年1月9日(土)～11日(月) いずれか1日を指定
(一般)	11/1～3/1/6	3年1月23日(土)
貸費学生	10/1～3/1/15	3年1月30日(土)

パワーアドベンチャー（三自衛隊統一募集広報）

7月25日(土)西部方面総監部が企画する三自衛隊統一募集広報を活用した自衛隊職場見学ツアーを実施しました。

このツアーは、高校生を対象とし、九州に所在する陸・海・空各自衛隊を同時に研修することにより、各自衛隊への理解を深め、自衛隊への入隊意欲を高めることを目的として実施され、熊本県内で自衛隊受験を希望する高校生等10名が参加しました。



今回は、宮崎県細島工業港において、海上自衛隊「護衛艦しらぬい」を、航空自衛隊新田原基地において空自所在部隊、陸上自衛隊第24普通科連隊を研修し、参加者はそれぞれ満喫していました。

「護衛艦しらぬい」の研修では、海上自衛隊の任務、艦内及び装備品を見学し、新田原基地では、基地の任務、各種航空機の見学等、陸自部隊では、えびの駐屯地所在の装備品を見学しました。

職場見学を通じて、各自衛隊の重要性を認識して頂くとともに、職種・職域の幅広さについても理解してもらいました。参加者からは、「それぞれ魅力があって、陸・海・空どの自衛隊に行くか迷っています。」「しっかりと勉強して、入隊できるように頑張ります。」などの頼もしい感想がありました。

今回は西部方面総監部からのオファーがあり、熊本地本広報大使（大学3年生 宮崎頌子さん）が現地リポーターとして参加し、隊員や参加高校生等に突撃インタビューを敢行すると、隊員からの貴重な生の体験談や高校生等からは初めて間近で見る装備品の迫力や重厚感に対する感想とともに「参加して良かった、映像で見るのとは全然違います。」「私の県には陸上自衛隊しかないので、希望する航空自衛隊を見学できたし、何より航空自衛隊の方と職場で話せたことで入隊後のイメージが持てました。」などの貴重な意見を聞くことができました。

自衛隊熊本地方協力本部では、一人でも多くの学生等に自衛隊入隊を志願してもらうため、今後も募集広報活動に尽力していきます。



防衛医科大学校説明会

9月13日（日）熊本地方合同庁舎において、防衛医科大学校についての理解促進を目的として、説明会を実施しました。

本説明会は現役医官及び看護官の協力を得て、主に体験談等を通じて防衛医科大学校を身近に感じてもらい、個々の不安の解消及び受験意欲の向上を図れるよう企画しました。

当日は、県内の高校生、専門学校生及びその保護者等21名が参加しました。現役の医官である武川舞子2尉（自衛隊熊本病院）及び看護官である平井楓曹長（自衛隊福岡病院）が、防衛医科大学校の魅力について現場の声を志願者等に伝えました。

概要説明においては、防衛医科大学校医学科及び看護学科の各教育課程について丁寧に説明し、参加者は熱心に聴講していました。



体験談では、訓練も受けながら勉強をするという防衛医科大学校でしか経験できない貴重な体験談に興味津々な様子でした。

参加者からは「学生の1日のスケジュールはどうなってますか？」「試験のために、どのような勉強をした方が良いですか？」といった積極的な質問が飛び交っていました。

航空学生説明会

八月九日（日）熊本地方合同庁舎において、航空学生制度の理解促進することを目的として、航空学生志願者等を対象とした説明会を実施しました。

現役パイロットの協力を得て、主に体験談等を紹介し、個々の不安を解消するとともに、少しでも身近に感じていただき受験意欲の向上を図れるよう企画しました。

当日は、県内の高校生、専門学校生等十六名が参加しました。説明会においては、現役パイロットである本田大輔一尉（海上自衛隊第二十二航空隊）、平田亮祐二尉（航空自衛隊第五航空団）の二名から、パイロットの魅力について生の声を志願者等に伝えました。

概要説明の場では、海上自衛隊及び航空自衛隊の各課程教育について説明し、参加者は海・空自衛隊の課程教育の違いなどを熱心に聴講していました。

募集相談員連絡会議



7月28日（火）熊本県自衛官募集相談員39名を招へいし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて、連絡会議を開催しました。

本会議は、県内の自衛官募集相談員に対し熊本

県における自衛官等募集の現状を認識して頂くとともに、防衛基盤の充実及び自衛官等募集に対する理解の促進を図り、令和2年度の募集目標達成の資とすることを目的として実施したものです。

現状説明においては、熊本地方協力本部募集班長より昨年度の募集実績及び令和2年度の募集状況並びに各種募集施策等の説明を実施しました。また、西部方面総監部人事部募集課計画班長から、西部方面隊における募集実績及び募集施策等の紹介を実施しました。

各地区の自衛官募集相談員による活動紹介においては、それぞれの相談員が募集効果のある勧誘技法などをユーモアを交えて紹介されました。紹介の中で、学校訪問の際に、子供を入隊させた経験がある募集相談員が同行して保護者側の立場から説明することにより、より説得力のある募集活動につながっていることが、特に印象的でした。

意見交換会では、各募集相談員から入隊種目や自治体等との連携状況などのより踏み込んだ質問や意見が活発に交わされました。

会議を終えて、参加者からは「自衛官募集の厳しい現状を踏まえ、もっともっと力を入れて募集に協力します。」「自衛官募集相談員としての役割を再認識し、今回の会議を通して知り得た知識を活用して、一人でも多くの入隊希望者の情報を提供したい。」との協力的なコメントを頂きました。



体験談等では、海上・航空自衛隊それぞれの目線で特色ある体験談を語るとともに航空操縦幹部としての地位・役割について懇切丁寧な説明を実施しました。参加者は海・空自衛隊のパイロットからの話に目を輝かせ興味津々に聴講していました。その他、パイロットスーツ等の展示及びブルースーツのVR体験を行い、パイロットの魅力を感じていただきました。参加者からは「現役パイロットの話聞いて、受験したい気持ちが高まりました。」「貴重な話を聴き、とても参考になった。」と満足された様子が伺えました。

令和2年7月豪雨 予備自衛官等災害招集



七月七日（火）に即応予備自衛官、九日（木）に熊本県で初の予備自衛官に対する災害派遣命令が発出され、即応予備自衛官（七十七名）及び予備自衛官（五十名）の招集業務を実施しました。

災害招集受入部隊については、西部方面混成団、西部方面後方支援隊及び西部方面衛生隊が担当し、万全の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて受入業務を行いました。出頭に応じた予備自衛官等の意気込みは凄く、「直ぐにでも現場に行きたい。」などの声が多く聞かれました。

出頭後、速やかに身体検査及び被服受領を実施して、派遣地域での活動内容についての説明が実施されました。

活動内容は、人吉・球磨地域での支援物資の仕分け、物資輸送、災害ゴミ（瓦礫）の撤去などを担当し、看護士の資格を保有する二名の公募予備自衛官については、現地で医療支援などの活動を担任しました。派遣隊員からは「本場に被災者の手助けができたのか？」



「やり残した事がたくさんあるような気がする。」「被災者に寄り添いもっと長く活動したかった。」など悔やむ声もあり、熊本県出身の予備自衛官の地域への熱い思いは想像を遥かに超えていました。

こういった状況の中、任務終了後、全員に対して新型コロナウイルスの抗原検査を実施し、全員が異常のないことを確認して無事に派遣活動を終了しました。

また、派遣後には予備自衛官等雇用企業主の皆様に対する御礼と「雇用企業協力確保給付金」の説明を行い、引き続きのご協力に對して理解の促進を図りました。

自衛隊熊本地方協力本部は、常に本部長要望事項である「責務の完遂」と「和と風通し」を念願に、有事においても、任務を完遂する気概をもって予備自衛官業務に邁進する所存です。



雇用企業主の声

医療法人 田中会 武蔵ヶ丘病院
看護部長 蔭平 悦子 様



1. 企業の概要及び事業内容等
当院は熊本市北区楠にあり、9つの診療科と3つの専門外来を有する総合病院です。また、二次救急医療機関の指定も受けており、24時間救急・時間外患者様の診療を行っております。入院診療体制としては、急性期の患者様の治療、看護を中心とした「一般病棟」を45床、寝たきり防止・在宅復帰・社会への参加を目指す「回復期リハビリテーション病棟」を60床、そして急性期医療終了後の退院に対して不安のある患者様が早期退院出来るようサポートする「地域包括ケア病棟」を40床という複数の病床機能を併せ持つケアミックス型の病院でもあります。当院では、「まっすぐに、人と向き合う。」を院是とし、「医業を通じて人に、社会に、貢献する。」を理念として熊本市北区の真の地域に根ざした病院として日々精進しております。

2. 退職自衛官の採用理由
介護職員の現状は、少子高齢化が進み介護施設の66%は人材不足で悩んでいます。弊院もその中に入ります。求人募集を出しても中々応募がない状況が続きました。介護職員は、プロとしての使命感を持って仕事をしています。使命感とは、果たすべき義務を全うするという強い責任感という意味です。この点については、自衛隊職員の「規律正しさ」「真面目さ」「協調性」「責任感」「行動力・実行力」など使命感とは到底比べものになりませんが、同じ気持ちで、患者様、ご利用者様とご家族様に対して、即、現場でプロとしての素晴らしい使命感を学べるのではないかと、また、違う角度から介護職員の雇用が生まれるのではないかと思い、熊本地方協力本部ご担当者様へ相談するに至りました。

3. 退職自衛官の職務内容及び勤務の様子について
「定年退職後に介護の道に進みたいと希望されている、女性の自衛官の方が、病院見学に来てくださいます。」との連絡を受けて、これは願ってもない良い機会だと思い、林田さんの病院見学当日は、介護主任副主任全員集合でのご案内をしようと作戦を立てて、院内見学をしていただきました。介護職が足りない深刻な時期でしたので、林田さんが、救世主に見えたほどもでした。実際に林田さんにお会いしてみると、年齢を感じさせないパワーとやる気が感じられ、「この人をぜひ武蔵ヶ丘病院へ迎え入れて、一緒に働いていこう。」と、介護管理者3人も口々に話していました。林田さん本人も、これから介護の道で、介護福祉士の資格をとって、あと20年近く働いていきたいと語っていただきました。現在入職されて3か月以上が経過し、若い介護職員に混ざり和やかに違和感なく働いている姿をみて、本当にまじめで一生懸命取り組まれる方だと好印象を持っています。主な業務内容は、病棟でのシーツ交換や、患者様の食事介助、排せつ介助、車いすなどでの移動介助、環境整備などがあります。

最初のうちは、「なかなかいろんなことが覚えられなくて、みんなに迷惑をかける。」と悲観的におっしゃることもありましたが、慣れると弱音を吐かれることもなくなってきました。さすがに自衛隊で鍛えた根性ここにあり。鍛えられた心と身体で、毎日を乗り越えて頑張っておられます。

また、当院では介護福祉士資格取得応援制度もあります。3年間の実務経験ができれば、介護福祉士という国家資格が取得できるチャンスもありますので、みんなで応援したいと思います。

今までの3か月が本人にとって一番きつい時期だったことでしょう。これからは、ゆとりをもって患者さんとコミュニケーションができるようになるとよいですね。これからも、明るくのびのびと働いてもらえるように勧めていきたいと思ひます。林田さんに、この病院で働いてよかったと思ってもらえるように…また林田先輩に続く自衛官の第2の職場となりますように、介護職に幅広く挑戦できる職場づくりに努めてまいりますのでどうぞよろしくお祈いします。

合 同 企 業 説 明 会

8月28日（金）、グランメッセ熊本（益城町）で「令和2年度第1回熊本県任期制隊員合同企業説明会」（共催・自衛隊援護協会福岡支部）を開催しました。



今年度の特性として、コロナ禍での開催であったため、参加者を熊本県内の所在部隊及び企業に限定し、フェイスシールド等の万全の感染症拡大防止対策を講じた上で説明会を実施しました。本説明会には、熊本県内に就職を希望する隊員36名と熊本県内に事業所がある企業61社が参加しました。

新型コロナウイルス感染症を理由とした企業の辞退が懸念されましたが、参加を辞退する企業はほとんどなく、任期制隊員の採用に対する関心の高さが伺われました。合同企業説明会の冒頭、自衛隊熊本地方協力本部仲西本部長と援護協会福岡支部立石支部長から参加企業に対し、日頃からの協力への感謝と合同企業説明会の目的、任期制隊員の有用性及び予備自衛官雇用への協力について挨拶を行いました。

隊員は、あらかじめ企業の求人情報を入念に調べ、関心を持った複数の企業ブースにおいて、企業の概要について説明を受け、面談等により理解を深めました。

面談後、隊員からは「就職したいと思った企業が多数あった一方、面談の練習等をもっと万全にすべきだった。」という意見もありました。

企業からは隊員について「礼儀正しい。」「笑顔が多い。」等の好評価を頂きました。また、面談時の姿勢や意思の表現方法等厳しくも温かい、じ後の就職活動に有用なアドバイスも頂きました。

今後、隊員と企業の就職（採用）の意向を確認し、希望が合致した者については、就職の面接等、再就職に向けた調整を本格的に始動させていきます。

また、募集と援護は表裏一体であることから、合同企業説明会の場を、募集協力者に対して任期制隊員の退職制度を具体的に説明する好機と捉え、高校進路指導教諭や募集相談員を招き現地において説明を行いました。参加者らは、参加隊員の就職状況や処遇等についての質問等、地本からの説明に熱心に耳を傾けていました。

予 備 自 衛 官 訓 練

8月28日（金）から9月1日（火）の間、北熊本駐屯地で実施された第2次予備自衛官5日間招集訓練を支援しました。

今年度は、令和2年7月豪雨による災害派遣の影響により第1次の5日間招集訓練が中止になったため、今回の訓練が今年度初の予備自衛官5日間招集訓練となりました。本訓練は、第42即応機動連隊が担任し、万全の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施しました。予備自衛官175名が参加、久しぶりの迷彩服に身を包み引き締まった表情を見せ、先輩や同僚、後輩達との再会を喜んでいました。実弾射撃・体力検定・ガンハンドリング・警備訓練等においては、真剣な眼差しで取り組み「やっと訓練ができてよかったね。」などの前向きな声が聞かれました。



予 備 自 衛 官 表 彰 者 紹 介

令和二年度 第二次

防衛大臣表彰（勤続三十年）

一等陸曹 中尾 優春 氏（玉名市）

熊本地方協力本部長表彰（勤続五年）

准陸尉 榎木 義明 氏（熊本市）

准陸尉 大塚 久徳 氏（阿蘇市）

准陸尉 日高 美俊 氏（菊池市）

西部方面総監顕彰（定年）

一等陸尉 小牧 正 氏（熊本市）

一等陸尉 山本 康 氏（熊本市）

二等陸尉 小田 憲正 氏（熊本市）

三等陸尉 本田 勝則 氏（合志市）

三等陸尉 浦上 正春 氏（熊本市）

三等陸尉 麥塚 良一 氏（球磨郡）

三等陸尉 上野 和英 氏（荒尾市）

陸曹長 益田 吉雄 氏（八代市）

陸曹長 立田 公明 氏（上益城郡）

令和二年度 第三次

陸上幕僚長表彰（勤続二十年）

三等陸曹 永野 智子 氏（熊本市）

熊本地方協力本部長表彰（勤続五年）

二等陸佐 山本 芳晴 氏（熊本市）

三等陸佐 高木 浩義 氏（菊池郡）

准陸尉 池上 和浩 氏（宇土市）

准陸尉 勉 義裕 氏（熊本市）

准陸尉 上田 修市 氏（熊本市）

准陸尉 川邊伸一郎 氏（上益城郡）

西部方面総監顕彰（定年）

二等陸尉 吉村 徹則 氏（熊本市）

准陸尉 園林 功 氏（球磨郡）

准陸尉 尾崎 洋祐 氏（阿蘇郡）

准陸尉 佐々木 優 氏（菊池郡）

准陸尉 森 昇 氏（熊本市）

陸曹長 松永 行徳 氏（球磨郡）

今回、玉名地域事務所のリクルータとして勤務させていただきました、とてもいい経験になりました。広報官の方と一緒に仕事をさせていただきました、OBの方や家族会の方と会話する機会や学校訪問に行きました。母校の岱志高校に訪問し、部活動の顧問の先生と会って、自衛隊での近況を報告する事が出来ました。また、後輩に自衛隊のことを知ってもらい同校から一人でも多くの志願者が出てくれるように、部隊に帰って訓練等を頑張ることが、それに繋がるとしています。任せられた仕事だけでなく、隊員自主募集などにも積極的に貢献していきたいと思っています。

西部方面対舟艇対戦車隊

陸士長 **木庭 亮佑**

8月1日～8月31日

玉名地域事務所勤務



リクルータ
紹介

所名	期間	階級・氏名	部隊名	出身校
玉 名	9/ 1～ 9/30	空士長 中川 丈瑠	第8航空団基地業務群	秀岳館高校
募集課	9/ 1～11/30	海士長 坂下 真奈	佐世保地方総監部 管理部人事課	秀岳館高校
人 吉	9/ 9～10/ 5	空士長 菖蒲 瑞希	航空教育隊 第2教育群	人吉高校
人 吉	9/14～ 9/18	1 陸士 田浦 隼人	第3高射特科群 第303高射搬送通信中隊	球磨工業高校
水 俣	10/ 1～10/31	1 陸士 森山 凌弥	第12普通科連隊 第1中隊	水俣高校
菊 池	10/ 5～11/13	海士長 有田 弓香	第2護衛隊群 護衛艦いせ	信愛女学院高校
玉 名	11/ 1～11/30	1 陸士 西川 詩音	第4通信大隊第1中隊	北稜高校
玉 名	11/ 1～11/30	陸士長 犬塚 光咲	第4通信大隊第1中隊	秀岳館高校

私は、水俣地域事務所のリクルータとして勤務しました。私は話す事が苦手で、自衛隊の魅力を伝える事ができるのか、不安な気持ちでいっぱいでしたが、広報活動をやっていくなかで地元の高校生と懇談する機会がありました。高校生との懇談では、年齢も近いということもあり、お互い話やすく、私なりに、自衛隊の魅力を伝えることができたと思います。その中でどんな風に話すと伝わりやすいのか考えたり、とても勉強になりました。これからは部隊に帰っても周りの友達や後輩などに進んで声を掛け、自衛隊の魅力を一人でも多くの人に広めていきたいと思っています。

護衛艦こんごう

1等海士 **村上 柊大**

8月1日～8月31日

水俣地域事務所勤務



私は、リクルータとして熊本地本募集課で勤務をしました。この間、多くの業務を経験させて頂きました。女性限定座談会では、参加者に自衛隊の魅力を説明する中で少しでも理解してもらうように伝える事が難しかったです。また、サテライトブース勤務では、多くの事を知ってもらい自衛隊に興味をもってもらう事が出来ました。その中で、広報官の方が相手に対して分かりやすく対応されている姿を見てコミュニケーションが上手で凄いなと思いました。今回リクルータとして一ヶ月間勤務させて頂き、聞き手の立場になって伝える事の難しさを学び、いつかは広報官として勤務したいと思っています。

第42即応機動連隊

陸士長 **松江 志保**

8月1日～8月31日

募集課勤務



自分は現在、航空自衛隊入間基地第3補給処に所属しており今回リクルータとして菊池分駐所で勤務しました。主に、募集ブース、サテライトブースの支援、航空自衛隊への入隊説明会など、積極的に広報活動を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止により各種イベント等が中止になりましたが、参加した活動では自身のこれまでの自衛隊経験や知識、防衛省・自衛隊の魅力を大いに発信し、参加者の疑問や不安の払拭に努め、志願者獲得を目指しました。初めての募集活動で困惑したものの、各所の広報官の方々が丁寧に教えてくださったので、微力ですが貢献できたと思います。

第3補給処保管部

空士長 **西山 泰聖**

8月1日～8月31日

菊池分駐所勤務



私は二ヶ月間、熊本地本募集課でリクルータとして勤務をさせていただきました。部隊とは異なり、陸・海・空自衛官や事務官の方々に囲まれての勤務に衝撃を受けることが多かったです。自分と同じ通信という職種である陸・空の隊員と仕事の話になり、実際の仕事内容の違いに驚きました。また、自衛隊用語に対する事務官の方の反応は新鮮で二年目になる勤務の中で自分も自衛隊に染まってきていることをしみじみと実感しました。この二ヶ月間の経験を今後の自主募集活動に活かしていこうと思います。

大村システム通信分遣隊

海士長 **須藤 祐加**

7月1日～8月31日

募集課勤務



自衛官募集



政府専用機（航空自衛隊）

熊本市西区春日2丁目10-1
Tel: (096) 297-2051



「地本HP」



「地本Twitter」